

性起源、種分化機構を明らかにするため、日本国内、他の地域に分布する集団の倍数性、近縁種とその類縁関係についての比較調査・分析が今後の課題である。

証拠標本：鳥根県隠岐郡隠岐の島町銚子、2007年6月1日、Lin & al. 07060186 (鳥根大学生物資源科学部生物科学科標本室)。

終わりに、本研究を進めるにあたり、フィールドワークにご協力を頂いた大津浩三教授、貴重なご意見と産地の資料を頂いた枚村喜則先生に厚く御礼申し上げます。この研究活動の一部は鳥根大学生物資源科学部学部長裁量経費(2007)によってサポートされました。

引用文献

- Hara H. 1983. A revision of *Caprifoliaceae* of Japan with reference to allied plants in other district and the *Adoxaceae*. *Gingoana* **5**: 1–336.
- 原 寛, 大場秀章 1989. スイカズラ科. 佐竹義輔, 原 寛, 巨理俊次, 富成忠夫 (編), 日本の野生植物木本 II. pp. 224–247. 平凡社, 東京.
- Hommel P. W. F. M and Wieffering J. H. 1979. *Lonicera periclymenum* L. IOPB Chromosome number reports LXIII. *Taxon* **28**: 265–279.
- Javurkova V. 1980. *Lonicera periclymenum* L. IOPB Chromosome number reports LXIX. *Taxon* **29**: 713–714.
- 環境庁 2000. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物・植物 I (維管束植物)・レッドデータブック. 534 pp. 自然環境研究センター, 東京.
- 鳥根県環境生活部景観自然課 1997. しまねレッドデータブック. pp. 212–215. 鳥根県, 松江.
- Sokolovskaya A. P. and Probatova N. S. 1985. Chromosome numbers in the vascular plants from the Primorye Territory, Kamchatka region, Amur valley and Sakhalin. *Bot. Zurn. SSSR*. **70**(7): 997–999.
- 枚村喜則, 井上雅仁, 皆木宏明, 福岡 孝, 矢田猛士, 竹内幹蔵, 大畑純二 2005. 鳥根県種子植物相. 鳥根県立三瓶自然館研究報告 **III**: 31–32.
- Uhrikova A. and Majovsky J. 1980. *Lonicera periclymenum* L. IOPB Chromosome number reports LXIX. *Taxon* **29**: 725–726.

(鳥根大学生物資源科学部生物科学科
E-mail: sjlin@life.shimane-u.ac.jp)

植物研究雑誌 **84**: 123–124 (2009)

ウメガシマテンナンショウ (サトイモ科) 発見の経緯 (大村敏朗) Toshiro OHMURA: Notes on *Arisaema maekawae* J. Murata & S. Kakishima (*Araceae*)

Summary: *Arisaema maekawae* J. Murata & S. Kakishima (*Araceae*) was described from Yamanashi Pref., central Japan, in 2008. However, a plant of the species was already found by me at Umegashima, Shizuoka Pref., in 1954, and was recognized as a new species. A specimen of the plant was sent to the late Dr. Fumio Maekawa for his examination then informed me of a new name *A. umegashimense* for the plant. Unfortunately, the new species has not been published yet, but I could immediately identify my plant with *A. maekawae*.

昭和29 (1954) 年5月末, 恩師, 故杉本順

一先生と安倍郡梅ヶ島村 (現静岡市葵区) 梅ヶ島温泉に一泊し, 翌日温泉周辺の森林地帯 (標高900 m) で植物の調査・採集を行った. その時林下で見慣れぬテンナンショウを見つけ, 杉本先生に見せたが判らなかつた. これが後のウメガシマテンナンショウである. 勇氣百倍安倍峠に登ったが, 奇しくも安倍峠の平坦地点にたどりついた. その付近の沢で, スゲの新種スルガスゲを見つけ, これも杉本先生に呈示したが, 先生はご存知なかつた. こちらはその後, 東大の小山鐵夫博士が本誌30巻10号 (1955) で発表された.

ウメガシマテンナンショウは同じ教室に居られた, ギボウシ, カンアオイ, テンナンショ

ウなどの専門家である前川文夫先生に現物を送って同定を依頼した。先生からは折り返し、それは新種であり、*Arisaema umegashimensis* ウメガシマテンナンショウ (前川命名) と返事を頂いた。正式発表を首を長くして待ちわびたが、何らかのご都合があつてか、発表はなかった。杉本先生も発表する気がなく、前川先生からの通知の裸名のままそのまゝになり、今日に至ったのである (杉本 1967, 1973, 1974, 1984)。

しかしながら、図らずも2008年春、東大の邑田 仁、柿嶋 聡両氏によって分布域を広げた上で新種として正式に発表された (Murata and Kakishima 2008)。これで一段落し、私の名はないものの、感激一入である。

邑田・柿嶋両氏によって発表された学名は *A. maekawae* J. Murata & S. Kakishima とされ、タイプ標本は山梨県南巨摩郡南部町内船 (標高1000 m) の天子ヶ岳西麓で採集したものが当てられた。前川先生の裸名は廃棄されたが、種小名は前川先生に献名された。和名は以前のウメガシマテンナンショウが採用されている。

本種はホソバテンナンショウに最も近縁であるが、仏炎苞の内軸面の周辺を除き、中央部に細乳頭を密布して粉白色を帯び、付属体がより太いことで区別できる。杉本 (1984) はウメガシマテンナンショウは静岡県内の固有種として、次の六ヶ所が記載されている；安倍峠 (大村・杉本、実際は梅ヶ島温泉から安倍峠へ登る途中の林下)、梅ヶ島温泉奥 (杉

本)、真富士山 (大村)、山伏岳・井川峠・玉川の奥仙俣・三伏峠 (黒沢)。Murata and Kakishima (2008) は、静岡県内では、梅ヶ島温泉～関の沢、本川根町閑蔵～長島、梅ヶ島大滝、蓬沢、梅ヶ島温泉～安倍峠、富士宮市天子ヶ岳、山梨県では、南巨摩郡南部町天子ヶ岳、安倍峠道、南部町小草里、長野県では、下伊那郡清内路村が記載され、静岡・山梨・長野の三県に分布していることが判り、静岡県の固有種ではなくなった。

ウメガシマテンナンショウの発見当時前川先生に同定を依頼したのであるが他に発表して下さる専門家が見当たらないことで現在までそのままになってしまったのであり、また同定を依頼した標本の所在が不明と思われるので、ここに経緯を記した次第である。

引用文献

- Murata J. and Kakishima S. 2008. *Arisaema maekawae*, a new species of the *Arisaema serratum* group (*Araceae*) from Japan. *Acta Phytotax. Geobot.* **59**(1): 45–50.
- 杉本順一 1967. 静岡県の植物。静岡県生物研究会。(ウメガシマテンナンショウ, p. 487)
- 杉本順一 1973. 日本草本植物総検索誌〈単子葉編〉。井上書店、東京。(ウメガシマテンナンショウ, pp. 238, 246)
- 杉本順一 1974. 大村敏朗氏略伝。東海自然誌(1): 75–77.
- 杉本順一 1984. 静岡県植物誌。第一法規出版、東京。(ウメガシマテンナンショウ, p. 696)

(420-██████████ 静岡市 ██████████)

植物研究雑誌 **84**: 124–126 (2009)

日本の植物学とローマ字の問題 2. 新和名の発表とローマ字 (金井弘夫)

Hiroo KANAI: Japanese Botany and Roman Spelling 2. New Japanese Plant Name and Its Roman Spelling

Summary: The Roman spelling of new Japanese name usually shown under the new scientific name is merely a phonetic rendition of the Japanese name and does not represent Japanese spelling.

わが国の高等植物の分野では、新植物を発表するとき、その和名を与えるのが通常のやり方である。それが新しいタクソンである場合、国際植物命名規約に則った新学名が記され (その発表頁を a 頁とする)、その直後に